

令和 5 年 9 月 28 日現在

機関番号：34319

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00009

研究課題名(和文) アジアの舞台芸術創造における国際的な「ラボラトリー機能」の実践的研究

研究課題名(英文) Practical research on international "laboratory functions" in Asian performing arts creation

研究代表者

天野 文雄 (AMANO, Fumio)

京都芸術大学・舞台芸術研究センター・特別教授

研究者番号：90201293

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本では毎年数多くの舞台芸術作品が発表されているが、欧米に比べて「創造のプロセス」に対する支援は脆弱である。その点に関して、芸術系大学が提案した新しい「創造のプロセス」のモデルが「ラボラトリー機能」である。本プロジェクトは、アジア圏を対象としたその国際的応用の有効性をめぐって総合的に研究した。2年目には7ヶ国12名のパネリストによる大規模な国際シンポジウムを実施し、21世紀型の創造環境や方法をめぐる理論的基盤を見出すことができたほか、中国、台湾、インドとのあいだに3つの「国際共同ラボラトリー」を実施し、国内外の研究者とアーティストが多様な調査、ワークショップ、劇場実験を共同で実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) 日本の舞台芸術では、創造と研究の現場が長い間乖離してきたが、欧米では両者の融合が進んでいる。「ラボラトリー機能」の概念を用いて、両者の融合をはかり、作品創造と結びついた新たな国際共同研究を実践したことが、わが国の「芸術研究」における本研究の学術的意義である。

(2) 芸術系大学の社会的役割は、教育だけにとどまらず、優れた作品創造の環境や方法の開発に積極的に寄与することだと考える。本研究は、日本社会における舞台芸術の創造環境上の課題を、芸術研究の概念と場を拡張することで解決しようと試みたものであり、その点に社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Although many performing arts productions are presented every year in Japan, support for the "creative process" is weaker than in Europe and the U.S. In this regard, a new model for the "creative process" proposed by universities of the arts is the "laboratory function". This project conducted comprehensive research on the effectiveness of its international application in the Asian region. For example, in the second year, a large-scale international symposium was held with 12 panelists from 7 countries, where we were able to find a theoretical foundation for 21st century creative environments and methods, and three "international collaborative laboratories" were held with China, Taiwan, and India, where domestic and international researchers and artists conducted diverse collective researches, workshops, and theater experiments.

研究分野：芸術一般

キーワード：舞台芸術 演劇 舞踊 ドラマトゥルク アジア 劇場 日本文化

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 21世紀の今日、非西欧圏、なかでも「アジア圏」に世界的な注目が集まっている。舞台芸術の分野でも、「アジア」を対象とした「学術研究」の進展ばかりでなく、日本のアーティストやプロデューサーによる「舞台作品創造」の現場でも、アジアのアーティストと連携した国際共同プロジェクト作品が増加している。しかしながら学術研究と作品創造を発展的に融合し、新たな芸術実践へと繋げようとする試みは、必ずしも充分になされてきたとは言い難い。両者の成果をより広い視野のもとに集約し、「未来の優れた舞台芸術創造」につなげていくためには、**21世紀のグローバル時代における「ポスト西欧型・創造のプロセス」の構築**を目標とする「拠点＝センター」が必要である。

(2) 本研究プロジェクトの中心メンバーが所属する「京都芸術大学・舞台芸術研究センター」は、平成13年度の設立以来、日本で唯一の学内の本格的な劇場施設である「京都芸術劇場」を活用しつつ、「芸術系大学」のミッションを踏まえて「舞台作品創造」と「舞台芸術研究」の高度な融合を目指す、独自の実践的な研究活動を継続的に行ってきた。とりわけ、同研究センターを母体に設立された「舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点」(文部科学省「共同利用・共同研究拠点」認定、平成25年度 - 令和6年度、以下「研究拠点」)は、研究活動と創造活動との連携を基本的なコンセプトとする「ラボラトリー機能」という独自の研究概念をかかげた活動により大きな成果をあげてきた。そこでは、「舞台芸術研究」と「舞台作品創造」のそれぞれを担う研究者とアーティストが共同で研究チームを組織し、「演劇」「ダンス」「パフォーマンス」などの多種多様な芸術創造に資する工夫を凝らした「リサーチ」や「実験」が試みられ(=「ラボラトリー」の実践)、それが優れた舞台芸術を産みだす母体となることを実証してきた。なお、本研究プロジェクトの研究代表者である天野は、平成26年度から令和4年度まで、同研究拠点の研究リーダーをつとめている。

(3) 本研究プロジェクトの中心メンバーである天野、森山、田口、内野は、上記の研究拠点と密接に連携しつつ、科学研究費・基盤研究(A)「大学の劇場」による「ラボラトリー機能」の構築「芸術系大学の実践的研究モデル」(研究代表者：天野文雄、研究課題/領域番号17H00910、平成29年度 - 令和元年度)を実施し、「ラボラトリー機能」という新たな研究方法の有効性を多角的に検証し、大きな成果をあげてきた。これを踏まえて、「ラボラトリー機能」が、上記(1)の国際的な研究課題にも応用可能であるという認識を得て、本研究プロジェクトの立ち上げに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、「舞台作品創造」と「舞台作品研究」の両者を架橋する研究モデルとしての「ラボラトリー機能」を、日本を拠点とするアジア圏における舞台芸術の国際共同研究/共同製作のプロセスに応用し、そこでの有効性と課題を具体的に検証することを目的としている。

## 3. 研究の方法

主として東アジア、東南アジア、南アジアを具体的なパートナー領域とし、(A)理論的研究、(B)実践的モデル化、という2つのアプローチをとることとした。

### (A) 理論的研究

21世紀のグローバル時代における「ポスト西欧型・創造のプロセス」の構築を、基本コンセプトとした。その上で、前述のような「ラボラトリー機能」によるアジア圏の国際協働研究が不可避免的に直面する歴史的な規定性としての「近代化」の問題を多面的に検討すべく、21世紀のアジア諸国・諸地域の「現在」にとっての形成要因にあたる「近代化」のプロセスに関して、以下の3つの基本的視点を設定し、それぞれの研究に即した研究グループを組織した。

- 《視点1》 日本を除くアジア諸国・諸地域における「近代化」の諸相
- 《視点2》 日本とアジア諸国・諸地域における「近代化」の比較研究
- 《視点3》 グローバルな視点からみた日本における「近代化」の再検討

(1) 《視点1》《視点2》については、研究分担者の内野、森山が中心となり、アジア圏の「舞台芸術創造」に精通している研究協力者の川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナツプ(いずれも京都国際舞台芸術祭共同ディレクター)と協議を重ね、2年目に、大規模な国際シンポジウムを、7ヶ国のパネリストを招聘して実施した(本報告書「4. 研究成果」で詳述)。

(2) 《視点3》については、以下の3つの研究会を組織した。

劇場学研究会：

研究分担者の森山に加えて、長澤慶太(ドラマトゥルク)、吾郷賢(演出家/ THEATRE E9 KYOTO 芸術監督)が中心となり組織。主に「演劇」と「劇場」の「近代化」について考察した。

ダンス研究会：

研究協力者の山田せつ子(舞踊家/ 京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員)が、倉田翠、鈴木ユキオ(いずれもダンサー、振付家)と組織。「振付としての身体行為」と「器としての身体」をテーマとし、「ダンス」の「近代化」について考察した。

アニメと日本文化研究会：

研究分担者の田口が中心となり、諏訪春雄(学習院大学名誉教授)、藤澤茜(神奈川大学)、森谷裕美子(跡見学園女子大学)と組織。アジア圏で大きな影響力を持つ日本のアニメーションと日本の伝統芸能の関係について考察することを通じて、近代化の問題を間接的に検討した。

(B) 実践的研究

アジア圏における国際的な「ラボラトリー機能」の応用を目的として、以下の3つの国際共同研究チームを立ち上げ、劇場を活用した具体的な実験(以下、「劇場実験」)を含む研究・創作活動を実施した。

日本 中国国際共同ラボラトリー(研究プロジェクト: 老いを巡るダンスドラマトゥルギー)：

研究分担者の中島が中心となり、メンファン・ワン(中国/ 振付家、演出家)、高林白牛口二(喜多流能楽師)、児玉北斗(ダンサー、振付家/ 芸術文化観光専門職大学専任講師)、平井優子(ダンサー/ 演出振付家)等と組織した。

日本 - インド 国際共同ラボラトリー：

研究分担者の森山、研究協力者の山田せつ子が中心となって、シャンカル・ヴェンカテール・シュワラン(インド/ 演出家)、鶴留聡子(インド/ プロデューサー)等と組織。最終年度には、さらにアニルドゥ・ナーヤル(インド/ 俳優)、チャンドラ・ニーナサム(インド/ 俳優)、和田ながら(演出家)、武田暁(俳優)が加わった。

日本・台湾の現代舞台芸術交流プログラム：

研究分担者の森山が、研究協力者の竹宮華美(舞台制作者)と協力し、台湾のアーティスト・マネージャーの協会である Performing Arts Network Development Association(PANDA)と組織。PANDAの理事であるキャシー・ホン(台湾/ プロデューサー)、新田幸生(台湾/ プロデューサー)と協働しながら、主として日本と台湾の40代以下の舞台芸術関係者が、同時代的な情報交換を迅速にできる効果的なサイトを、日中2ヶ国語でウェブ上に立ち上げる方法論を研究した。

なお、初年度には、上記の諸活動に先駆けて、アジア圏アーティストとの豊富な協働経験を持つ村川拓也(演出家・映像作家)を研究協力者に迎え、「ラボラトリー機能」の実践に重きをおき、劇場実験を通じてテクニカルな可能性を探究する「演劇作品『事件』研究プロジェクト」を立ち上げ、さらにその劇場実験の成果は、その後、本格的な演劇公演(令和3年5月14-16日/ 於 京都芸術劇場)へと発展した。同作品の戯曲は、愛知芸術劇場が主催する第21回AAF戯曲賞・特別賞を受賞し、高い評価を得ている。

## 4. 研究成果

(1) 研究ネットワークの構築

研究期間の大半において猛威をふるったパンデミックの影響で、特に初年度と2年目は、国内外への移動や現地調査、国外研究者・アーティストの来日には大幅な制限を受けたが、オンラインでの交流形態の確立も功を奏し、3年間で40名もの研究協力者(そのうち国外は9ヶ国13名)とのネットワークを構築できた。

(2) 国際的なラボラトリー機能に必要な理論的基盤の明確化

○「舞台芸術の創造と受容 - その「構造」と「システム」の現在形と可能性について」

日時：令和3年9月25 - 26日

会場：オンライン及びロームシアター京都3階スペース

モデレーター：内野儀、森山直人、田村かの子（札幌国際芸術祭2020コミュニケーション  
デザインディレクター）

パネリスト：ダヴィド・カベシーニャ（ポルトガル）、アンナ・ヴァーグナー（ドイツ）、  
JK アニコチェ（フィリピン）、レザ・アフィシナ（インドネシア）、  
ジューン・タン（マレーシア）、スルジット・ノングメイカパム（インド）、  
西尾佳織（日本）、横堀ふみ（日本）

主催：京都芸術大学舞台芸術研究センター、京都国際舞台芸術祭（KYOTO EXPERIMENT）

2年目に実施した上記の国際シンポジウムでの議論を通じて、「西欧近代」が創出した「劇作家」「演出家」の職能、劇場や国際フェスティバルにおける「芸術監督」等の制度に見られるカリスマ的な個人が全体を司る集権的モデルに代わり、複数のアーティストやプロデューサーが対等な立場でチームを組む方法が、世界的に急速に広まり、作品創造や劇場と社会をつなぐ場を創出する上で多彩な成果をあげていることが明らかになった。オンラインの制限はあったものの、各国の多様な事例を一挙に紹介し合い、舞台芸術創造の「現在」と「未来」について共通理解を深められたこと、また国際的な「ラボラトリー機能」の実践が支援すべき対象が、「コレクティブ（集団創造）」という概念によって明確化できたことは、本研究課題にとって大きな成果であったといえる。

（3） メンファン・ワン（中国）との「ラボラトリー」実践

3年間にわたり実施した「日本 中国 国際共同ラボラトリー」では、3年目に国際研究集会＋公開ショーイング「型の向こうへ/Encountering Histories」（令和4年8月21日、京都芸術大学・千秋堂）を開催した。ダンスドラマトルクとしての中島が主導した「コレクティブ」の実践を通して、バレエ、前衛舞踊、能、日本舞踊がワークショップを通じて横断的に探究され、海外コラボレーターのワンの有する老年のダンサーとの過去の協働作業の経験もフィードバックすることができた。ダンスにおける「古い」と「型」の問題を、創造の障壁としてでなく、その可能性の領野へと転換する方法論を、ジャンル横断的に時間をかけて醸成することに成功した。ここでの研究成果の一部は、すでに中島の公式サイト（<http://www.nanakonakajima.com/>）で公開されており、今後も更新されていく見込みである。

（4） シャンカル・ヴェンカテーシュワラン（インド）との「ラボラトリー」実践

「日本 インド 国際共同ラボラトリー」においては、インド憲法の起草者の一人として知られる政治家・運動家のB.R.アンベードカルが刊行した演説原稿『カーストの絶滅』（1936）をモチーフとする演劇創造の可能性が、インドでのワークショップも含めて実践的に探求された。社会差別の問題に対して芸術実践の側から応答する方途として、2ヶ国語（英語、カンナダ語、日本語）による上演台本が手がけられ、その研究成果は本格的な演劇公演として一般公開された（令和4年12月10・11日、於 京都芸術劇場・春秋座）。

（5） ウェブ空間を活用した台湾の舞台芸術実践者との拠点形成

日台の若い世代の舞台芸術アーティストやプロデューサーが、双方の情報をタイムラグなしで共有できるウェブサイトやScrapboxを活用して立ち上げた。同サイトには、現時点で27本の記事が、日中2ヶ国語で公開されており、メンバーシップも拡大しつつある。（3）（4）のようなコレクティブ型ではなく、ネットワーク型のラボラトリーの実現は、研究開始当初は予期していなかった大きな収穫であった。

（6） 日本文化研究を通じた近代化の問題の間接的な検証

研究分担者の田口が中心となった「アニメと日本文化」研究会では、アジア圏で広く認知されている日本のアニメ文化と歌舞伎・浮世絵等との歴史的な関係性についての多角的な検証を行うことができた。ここでの研究成果は、田口章子編著『アニメと日本文化』（新典社選書、2023年）として公刊されている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 151
2. 論文標題 世阿弥の芸道用語「人ない」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 おもて（公益財団法人大槻能楽堂会報）	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 408
2. 論文標題 『夕顔』の「作意」からみえてくるもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鏡仙（公益社団法人鏡仙会機関誌）	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 150
2. 論文標題 世阿弥の謡い物『六代の歌』と「アル御方様」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 おもて（公益財団法人大槻能楽堂会報）	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 149
2. 論文標題 世阿弥の「五音」にはなぜ禅竹の名がみえないのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 おもて（公益財団法人大槻能楽堂会報）	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 152
2. 論文標題 『泰山木(泰山府君)』にみる世阿弥と義持	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 おもて(公益財団法人大槻能楽堂会報)	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 金春流七十六世七郎広運関係書状二点について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 伊藤正義中世文華論集 第四巻 文学史と思想史の間	6. 最初と最後の頁 523-531
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 第48回
2. 論文標題 「天鼓」の弄鼓之舞のこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 能(第48回篠山春日能解説冊子)	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 76(2)
2. 論文標題 メディアとしての現代演劇：生活と世界を別の回路でつなぐ(vol.5)オルタナティブなスペースは可能か? ：公共と民間の狭間で	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 悲劇喜劇	6. 最初と最後の頁 94-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 76(1)
2. 論文標題 メディアとしての現代演劇：生活と世界を別の回路でつなぐ(vol.4)国際共同制作、インターカルチュ リズム、アーティスト・イン・レジデンス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 悲劇喜劇	6. 最初と最後の頁 96-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 75 (6)
2. 論文標題 メディアとしての現代演劇：生活と世界を別の回路でつなぐ(vol.3)コレクティブ：劇団制とプロデュ ース制のあいだ、あるいはその「外」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 悲劇喜劇	6. 最初と最後の頁 64-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 75 (5)
2. 論文標題 メディアとしての現代演劇：生活と世界を別の回路でつなぐ(vol.2)オルタナティブな公共圏：現代にお いて、演劇が正しくメディアとして機能するには?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 悲劇喜劇	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 75 (4)
2. 論文標題 メディアとしての現代演劇：生活と世界を別の回路でつなぐ(vol.1)演劇と劇場の公共圏：公共劇場とは なにか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 悲劇喜劇	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横堀応彦	4. 巻 48
2. 論文標題 浜松市の音楽のまちづくりを支えるアクトシティ音楽院の展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域創造（一般財団地域創造広報誌）	6. 最初と最後の頁 26-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横堀応彦	4. 巻 325
2. 論文標題 くになち市民芸術小ホール「くになちオペラ『あの町は今日もお祭り』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域創造レター（一般財団地域創造広報誌）	6. 最初と最後の頁 12-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 横堀応彦	4. 巻 -
2. 論文標題 疑問に助けられた10年間	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アーツアカデミー10周年（東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修アーツアカデミー10周年記念冊子）	6. 最初と最後の頁 11-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中島那奈子	4. 巻 5
2. 論文標題 (老いた身体とダンス、ブルガリア語)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 dancemag.eu	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島那奈子	4. 巻 7
2. 論文標題 ダンスのアーカイブ化と デジタルアーカイブの現状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.7.1_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nanako Nakajima	4. 巻 2022
2. 論文標題 Democratising Tradition: Thai choreographer Pichet Klunchun 's fresh take on khon dance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Magazin im August (Tanz im August)	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 25
2. 論文標題 世阿弥再見 : 『六義』の成立にみる世阿弥と禅竹	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 171-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 28
2. 論文標題 『翁』の原郷 : 多武峰の宗教的芸能環境と興福寺両金堂修二会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年刊藝能 (藝能学会紀要)	6. 最初と最後の頁 121-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 459
2. 論文標題 「岩船」の原形にさかのぼる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊国立能楽堂（国立能楽堂公演プログラム）	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 265
2. 論文標題 春日若宮と能楽：若宮臨時祭、法楽能、祈雨立願能をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学（高橋悠介著 宗教芸能としての能楽；能をめぐる宗教的環境/能に描かれる宗教空間）	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 398
2. 論文標題 『楊貴妃』の「そよや霓裳羽衣の曲」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鏡仙（公益社団法人鏡仙会機関誌）	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 25
2. 論文標題 リー・ブルーアのために：しなやかな前衛精神ということ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts（京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌）	6. 最初と最後の頁 139-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相馬千秋、岩城京子、鴻英良、内野儀 森山直人	4. 巻 25
2. 論文標題 座談会「国際舞台芸術祭」は生き残ることができるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田彰、石田英敬、根岸徹郎 森山直人	4. 巻 25
2. 論文標題 座談会 渡邊守章の仕事	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 89-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森はるか、瀬尾夏美、森山 直人	4. 巻 25
2. 論文標題 インタビュー 言葉と映像 聞くこと、話すこと、残すこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島那奈子著、山田カイル訳	4. 巻 25
2. 論文標題 舞踏の外、身体の内 室伏鴻と即身仏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島那奈子、聞き手:波照間永子	4. 巻 19
2. 論文標題 巻頭インタビュー ダンスドラマツルクの活動と国際ネットワークの構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞踊学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 18
2. 論文標題 宇治猿楽の大和進出 : 鎌倉時代の天満祭と小五月会をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 能と狂言 = Noh and Kyogen (能楽学会紀要)	6. 最初と最後の頁 68-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 18
2. 論文標題 中世春日興福寺の演能空間再見 : 薪猿楽の南北朝以前の状況をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 能と狂言 = Noh and Kyogen (能楽学会紀要)	6. 最初と最後の頁 82-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 48
2. 論文標題 金剛流専有曲『雪』についての覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 紫明 : 藝術文化雑誌 (紫明の会)	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 64
2. 論文標題 『申楽談儀』の稲荷靈験譚にみる世阿弥の環境：三社託宣、観世稻荷、土倉をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朱（伏見稻荷大社機関誌）	6. 最初と最後の頁 2-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 観世鏡之丞、天野文雄	4. 巻 24
2. 論文標題 インタビュー 能を支えているもの：謡と囃子、間とリズム、そして掛け声	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts（京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌）	6. 最初と最後の頁 13-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 24
2. 論文標題 世阿弥再見：世阿弥の『砧』続々考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts（京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌）	6. 最初と最後の頁 154-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 33
2. 論文標題 能のなかの聖徳太子： 守屋 太子曲舞 を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野大学能楽資料センター紀要	6. 最初と最後の頁 66-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野文雄	4. 巻 704
2. 論文標題 世阿弥の『実盛』と將軍義持	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鏡仙(益社団法人鏡仙会機関誌)	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城能鳳、田口章子	4. 巻 24
2. 論文標題 インタビュー 明瞭な発音で唱えること：現代に生きる琉球芸能の神髄	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts(京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 100-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 6
2. 論文標題 脱領土化/再領土化から 破片 的へ：あるいは、10年代の上演系芸術を俯瞰する(第5回)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Assembly = アセンブリー：京都に劇場文化をつくる(ロームシアター京都機関誌)	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 7
2. 論文標題 脱領土化/再領土化から 破片 的へ：あるいは、10年代の上演系芸術を俯瞰する(最終回)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Assembly = アセンブリー：京都に劇場文化をつくる(ロームシアター京都機関誌)	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野儀	4. 巻 2021
2. 論文標題 統覚の複数性 ダムタイプの方へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際演劇年鑑2021	6. 最初と最後の頁 232-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口順哉、安部聡子、石田大、小林 洋平、森山直人	4. 巻 24
2. 論文標題 座談会 「地点語」と音楽	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木敦、森山直人	4. 巻 24
2. 論文標題 インタビュー 「日本語」の「うた」と「ことば」 J-POPと現代口語演劇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 70-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森山直人	4. 巻 24
2. 論文標題 日本語で「歌うこと」、「話すこと」：演劇的な「声」をめぐる考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 90-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本裕介、森山直人	4. 巻 24
2. 論文標題 インタビュー KYOTO EXPERIMENTの10年を振り返って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 舞台芸術 = Performing arts (京都芸術大学舞台芸術研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 167-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島那奈子	4. 巻 2021
2. 論文標題 書評 秘伝と歌舞伎女方の理論化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文化研究 (大阪公立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター機関誌)	6. 最初と最後の頁 182-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gabriele Brandstetter, Nanako Nakajima	4. 巻 25
2. 論文標題 Dance as a Gift Facilitating matchmaking without meeting each other	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PERFORMANCE RESEARCH	6. 最初と最後の頁 215-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 天野文雄
2. 発表標題 基調講演「復曲能 賀茂物狂」
3. 学会等名 国立能楽堂 特別公開講座 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天野文雄
2. 発表標題 事前講演「復曲能 賀茂物狂」
3. 学会等名 国立能楽堂 7月特別企画公演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天野文雄
2. 発表標題 事前講演「復曲能 岩船」
3. 学会等名 国立能楽堂 3月特別企画公演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梅山いつき、岡室美奈子、多和田真太良、松山立、横堀心彦（モデレーター）
2. 発表標題 第1部「教育・研究の現場から」
3. 学会等名 EPAD2022「撮る、のこす、使う！～舞台公演映像の利活用をめぐるシンポジウム」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 老いのドラマツルギー
3. 学会等名 ニューヨーク市立大学大学院（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 レクチャー ダンス～EUにおけるコンテンポラリーダンスについて
3. 学会等名 同志社大学学生支援センター（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 レクチャー ポストモダンダンスの伝統における老いのドラマトゥルギー（英語）
3. 学会等名 タンツクヴァルティアー・ウィーン（オーストリア）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子、レイチェル・フェンシャム、リム・ハウニエ、プリヤ・スリニバサン
2. 発表標題 ダンスドラマトゥルギーロングテーブル（英語）
3. 学会等名 キール振付アワード（オーストラリア・メルボルン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 レクチャー フォーエバーポストモダンダンス
3. 学会等名 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2022、京都市京セラ美術館（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 レクチャー Think first. Dance later.
3. 学会等名 ベケットパーティーシンポジウム、室伏鴻アーカイブカフェ（東京）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子、長島確ほか
2. 発表標題 舞台芸術はアーカイブ：消えるものの残し方と活かし方
3. 学会等名 フェスティバル・トーキョー、アーカイビングF/T オンライン連続トーク（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天野文雄
2. 発表標題 能のなかの聖徳太子 守屋 太子曲舞 をめぐって
3. 学会等名 武蔵野大学能楽資料センター主催、2021年度 オンライン公開講座「能・狂言と聖徳太子」（招待講演）
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 アジアドラマトルクネットワーク（中島那奈子）
2. 発表標題 インター、イントラについて
3. 学会等名 オンライン・アジアドラマトルクネットワーク・ディスカッション（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 老いと踊りを抱きしめること
3. 学会等名 Symposium Duesseldorf (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 レクチャー 老いのダンスドラマトゥルギーを呼び起こす
3. 学会等名 DnK劇場 / アンスティチュ・フランセ / ゲーテ・インスティチュート・ブルガリア / 2021年特別プログラム「光陰矢の如し」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 コンテキストの狭間を動くこと
3. 学会等名 何が最も大切なのか、混乱期のダンスドラマトゥルギー (オーストラリアダンスシアター、国立振付センター主催) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 パンデミック時代の老いを巡るダンスドラマトゥルギー
3. 学会等名 第4回文化芸術国際協会、第12回韓国舞踊学会、共同国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 片桐洋一、信多純一、天野文雄（三者の共同監修）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 560
3. 書名 伊藤正義中世文華論集 第四巻 文学史と思想史の間	

1. 著者名 田口章子編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 230
3. 書名 アニメと日本文化	

1. 著者名 学習院女子大学編著（内野儀）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学習院女子大学	5. 総ページ数 179
3. 書名 地域活性化とSDGsへの道標 知のコラボレーションの挑戦	

1. 著者名 中村陽一、高宮知数、槻橋修、五十嵐太郎（内野儀著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 256
3. 書名 21.5世紀の社会と空間のデザイン：変容するビルディングタイプ	

1. 著者名 Edited by Avra Sidiropoulou (Uchino Tadashi)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 258
3. 書名 Staging 21st Century Tragedies: Theatre, Politics, and Global Crisis	

1. 著者名 林人中編、中島那奈子著(台湾語翻訳 Tai-Jung YU, Yen-Ing CHEN)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 台北パフォーマンスアートセンター	5. 総ページ数 288
3. 書名 身體網絡：當代表演的文化與生態	

1. 著者名 橋本裕介著、森山直人・佐藤和佳子・川原美保編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 京都芸術大学舞台芸術研究センター	5. 総ページ数 360
3. 書名 芸術を誰が支えるのか = Supporting the arts : アメリカ文化政策の生態系	

1. 著者名 片桐洋一、信多純一、天野文雄(三者の共同監修)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 544
3. 書名 伊藤正義中世文華論集 第六巻 中世文華とその資料(下)	

1. 著者名 坂東会創立100周年記念書籍制作委員編（田口 章子著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 坂東会	5. 総ページ数 197
3. 書名 初心忘れず：坂東会創立100年	

1. 著者名 Edited by Peter Eckersall, Barbara Geilhorn, Andreas Regelsberger, and Cody Poulton (Tadashi Uchino)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Performance Research Books	5. 総ページ数 269
3. 書名 Okada Toshiki & Japanese theatre	

1. 著者名 Edited by Erika Fischer-Lichte, Christel Weiler, Torsten Jost (Nanako Nakajima)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 302
3. 書名 Dramaturgies of Interweaving Engaging Audiences in an Entangled World	

1. 著者名 片桐洋一、信多純一、天野文雄（三者の共同監修）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 537
3. 書名 伊藤正義中世文化論集 第五巻 中世文華とその資料	

1. 著者名 岡田利規、金氏徹平、黒澤浩美、宮沢章夫、篠原雅武、内野儀ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 SHUKYU	5. 総ページ数 144
3. 書名 チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム石』	

1. 著者名 石田勇治（編集代表）、中島那奈子（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 ドイツ文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>京都芸術劇場ウェブサイト <a href="https://k-pac.org/">https://k-pac.org/</a></p> <p>日本・台湾の現代舞台芸術交流プログラム（京都芸術劇場ウェブサイト） <a href="https://k-pac.org/openlab/805/">https://k-pac.org/openlab/805/</a></p> <p>テーマ研究 老いを巡るダンスドラマトゥルギー（京都芸術劇場ウェブサイト） <a href="https://k-pac.org/openlab/485/">https://k-pac.org/openlab/485/</a></p> <p>中島那奈子ウェブサイト <a href="http://www.nanakonakajima.com/">http://www.nanakonakajima.com/</a></p> <p>テーマ研究 「事件」を巡る新作公演のための研究事業(京都芸術大学共同利用・共同研究拠点ウェブサイト) <a href="http://old.k-pac.org/kyoten/guide/2020b1/">http://old.k-pac.org/kyoten/guide/2020b1/</a></p> <p>京都芸術劇場ウェブサイトには、本研究課題における研究施設（京都芸術劇場）ならびに連携機関（京都芸術大学共同利用・共同研究拠点）の概要を掲載している。以下のウェブページをあわせて参照。 研究施設（京都芸術劇場）の概要：<a href="https://k-pac.org/theater/">https://k-pac.org/theater/</a> 連携機関（京都芸術大学共同利用・共同研究拠点）の概要：<a href="https://k-pac.org/openlab/">https://k-pac.org/openlab/</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田口 章子  (TAGUCHI Akiko)  (80340529)	京都芸術大学・芸術学部・教授    (34319)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内野 儀 (UCHINO Tadashi)  (40168711)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授  (32699)	
研究分担者	横堀 応彦 (YOKOBORI Masahiko)  (40732483)	跡見学園女子大学・マネジメント学部・講師  (32401)	
研究分担者	森山 直人 (MORIYAMA Naoto)  (20343668)	京都芸術大学・その他の研究科(大学院)・客員教授  (34319)	
研究分担者	中島 那奈子 (NAKAJIMA Nanako)  (00728074)	大阪市立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研究員  (24402)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	タン ジューン (TAN June)		マレーシア/プロデューサー、「Five Arts Centre」メンバー
研究協力者	アフィシナ レザ (AFISINA Reza)		インドネシア/ニューメディア・アーティスト、「ルアンルパ」メンバー・アーティストックボード
研究協力者	カベシーニャ ダヴィド (CABECINHA David)		ポルトガル/アルカンタラ・フェスティバル共同芸術監督

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	J K アニコチェ  (JK Anicoche)		フィリピンノパフォーマンス作家、Sipat Lawin Ensemble、「Komunidad X」共同ディレクター
研究協力者	ヴァーグナー アンナ  (WAGNER Anna)		ドイツノフランクフルト・ムゾントゥルム劇場ドラマトゥルク、共同芸術監督
研究協力者	ノングメイカパム スルジット  (NONGMEIKAPAM Surjit)		インドノ振付家、「Nachom Arts Foundation」ディレクター
研究協力者	西尾 佳織  (NISHIO Kaori)		劇作家・演出家、鳥公園主宰
研究協力者	田村 かの子  (TAMURA Kanoko)		Art Translators Collectiveディレクター
研究協力者	横堀 ふみ  (YOKOBORI Fumi)		NPO法人 DANCE BOXプログラムディレクター
研究協力者	川崎 陽子  (KAWASAKI Yoko)		京都国際舞台芸術祭共同ディレクター
研究協力者	塚原 悠也  (TSUKAHARA Yuya)		京都国際舞台芸術祭共同ディレクター

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ナップ ジュリエット 礼子  (KNAPP Juliet Reiko)		京都国際舞台芸術祭共同ディレクター
研究協力者	ワン メンファン  (WANG Mengfan)		中国ノ演出家、振付家
研究協力者	高林 白牛口二  (TAKABAYASHI Koji)		能楽師シテ方喜多流
研究協力者	平井 優子  (HIRAI Yuko)		ダンサー、演出振付家
研究協力者	児玉 北斗  (KODAMA Hokuto)  (30929138)	芸術文化観光専門職大学・講師    (24507)	ダンサー、コレオグラファー
研究協力者	辻井 美穂  (TSUJII Miho)		パフォーマンス・アーティスト
研究協力者	天野 たま  (AMANO Tama)		「学び場 たまこや」主宰
研究協力者	ヴェンカテッシュワラン シャンカル  (VENKATESWARAN Sankar)		インドノ演出家、「Theatre Roots & Wings」主宰

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	和田 ながら  (WADA Nagara)		演出家、「したため」主宰
研究協力者	ナーヤル アニルドゥ  (NAIR Anirudh)		インド/俳優
研究協力者	ニーナサム チャンドラ  (NINASAM Chandra)		インド/俳優
研究協力者	武田 暁  (TAKEDA Aki)		俳優
研究協力者	鶴留 聡子  (TSURUDOME Satoko)		インド/舞台制作者
研究協力者	川原 美保  (KAWAHARA Miho)		京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員、プロデューサー
研究協力者	太田 和司  (OTA Kazushi)		京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員、舞台監督
研究協力者	ホン キャシー  (HONG Kathy)		台湾/アーツ・マネージャー、「P.A.N.D.A.」メンバー

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	新田 幸生  (NITTA Yukio)		台湾/クラウドゲイトダンスカンパニー、舞台芸術プロデューサー
研究協力者	竹宮 華美  (TAKEMIYA Hanabi)		舞台制作者
研究協力者	岩澤 侑生子  (IWASAWA Yukiko)		俳優、台湾演劇研究
研究協力者	山田 せつ子  (YAMADA Setsuko)		京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員、舞踊家
研究協力者	鈴木 ユキオ  (SUZUKI Yukio)		振付家、ダンサー
研究協力者	倉田 翠  (KURATA Midori)		演出家、振付家、ダンサー
研究協力者	村川 拓也  (MURAKAWA Takuya)		演出家、映像作家
研究協力者	長澤 慶太  (NAGASAWA Keita)		ドラマトウルク

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	吾郷 賢  (AGO Satoshi)		Theatre E9 KYOTO芸術監督、劇作家・演出家
研究協力者	諏訪 春雄  (SUWA Haruo)  (60082921)	学習院大学・名誉教授   (32606)	
研究協力者	藤澤 茜  (FUJISAWA Akane)  (30348495)	神奈川大学・国際日本学部 日本文化学科・准教授	
研究協力者	森谷 裕美子  (MORIYA Yumiko)  (40221709)	跡見学園女子大学・文学部人文学科・教授   (32401)	
研究協力者	新里 直之  (NIISATO Naoyuki)  (60972049)	京都芸術大学・舞台芸術研究センター・研究職員   (34319)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 型の向こうへ/Encountering Histories (研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマ トゥルギー」公開ショーイング)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際シンポジウム 舞台芸術の創造と受容 その「構造」と「システム」の現在形と可能性 について (京都芸術大学舞台芸術研究センター・KYOTO EXPERIMENT主催)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 老いを巡るダンスドラマトゥルギー公開研究会	開催年 2021年～2021年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

その他の国・地域（台湾）	P.A.N.D.A.			
インド	Theatre Roots & Wings	Nachom Arts Foundation		
マレーシア	Five Arts Centre			
フィリピン	Sipat Lawin Ensemble			